

農業技術 プリズム

「なつたより」は「茂木」より大果で良食味なビワですが、樹勢が強いため枝が長く伸び木が高くなります。木の生育は収穫後の芽かきで調整しますが、「茂木」で行っているような、6月に収穫した枝（果痕枝）から発生する新梢（しんしょう）を芽かきで1枝残し、来年の結果枝に育成する方法では「なつたより」と枝が伸び過ぎてしまい、その後に副梢も発生し枝が混雑します。さらに近年では気候変動が著しく、冬季の極温により寒害の被害を受けやすいため、花房の生育を遅らせることも必要です。そこで、枝の伸長を短く抑えて副梢が発生

しないコンパクトな木形づくりと寒害被害軽減できる生産技術を検討しました。芽かき処理の時期は遅いほど、花房進度（花房の生育）

ビワ「なつたより」の芽かき コンパクトな木形へ 7月中旬に2枝残す

は早くなり、結果枝長が短くなる傾向でした。また、芽かきの本数では2枝を残す方が1枝残しに比べ、結果枝長は短くなり、副梢数は少なくな

りました。中でも、7月中旬に2枝を残す芽かき処理で、結果枝長は最も短く、副梢数の発生は少なく、果房進度も遅くなりました。

（県農林技術開発センター 果樹・茶研究部門ビワ・落葉果樹研究室専門研究員 山下次郎）

芽かき処理方法、時期の違いと結果枝の生育

処理方法	芽かき時期 ^z	花房進度 ^y	結果枝径 ^x (mm)	結果枝長 (cm)	1結果枝当たり副梢数 (枝/結果枝)
2枝残し	6/23	1.8	9.1	20.0	0.2
1枝残し		2.0	9.7	27.0	1.3
2枝残し	7/13	1.1	8.1	16.4	0.0
1枝残し		2.1	9.7	19.5	0.8
2枝残し	8/4	2.5	9.2	17.4	0.4
1枝残し		3.2	10.0	18.4	1.1

^z各処理時期に不要な新梢を切除。7/16に誘引し、10/29に各区20結果枝を調査

^y花房進度 1：出蕾始期、2：穂軸分化始期、3：穂軸分化終期、4：摘蕾適期

^x最上位の葉から5cm下の枝径を測定